

# 本山寺の歴史と自然

百済 寂仁（本山寺・住職）

往にし方（いにしえ）の昔、本山寺、神峯山寺は、修験道の祖と云われる役の行者によって開基されたと伝えられる古刹であり、共に中興を光仁天皇の皇子（みこ）、開成（かいじょう）により、堂宇の建立をみる毘沙門天（びしゃもんてん）を本尊とする山岳仏教寺院である。

本山寺よりなおコースを進むと、ポンポン山（加茂勢山（かもせやま））山頂に立つが、これより、洛北、洛中、洛南のほぼ全域が見渡せる他、遠くは比良山南陵、比叡山、東山そして北山の峰々、北には愛宕山を望むことができる。

この愛宕山は、明治の廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）までは愛宕山々寺（おたぎやまさんじ）（阿多古山）という山岳寺院があり、これより、箕面の瀧安寺（りゅうあんじ）（みのうの瀧）までを行脚する修験者の行場として栄えた。

本山寺も神峯山寺もその中間地点である。

本山寺は戦国時代の戦火（天王山の戦い）によって焼失するも、豊臣秀頼によって再建され、綱吉の母桂昌院により本堂の大修理、庫裡の再建をみて復興する。特に本尊毘沙門天に対する当時の武将の崇敬がいかに厚く真剣であったかは、寺領の所有を認めた文書や安堵状、禁制書、寄進の品々を見てもわかる。

高槻の歴代城主の安堵状には

本山寺境内の竹木を剪採（きりと）ることを  
先々の如く堅く停止しめ訖（おわ）んぬ  
若し違反の族（やから）に於いては  
速（すみやか）に厳料に処す可者（べきもの）なり  
よっての状件（くだん）の如し  
○年 ○月 ○日

高山 右近 允出（ジュスト）

境内剪採竹木とあるように、歴代の城主の安堵状や禁制を見ることができる。このようにして明治までは、本山寺・神峯山寺の森林（もり）の保護と自然が保たれ護られてきた。

しかし、明治の廃仏、政府発布による上地令（挙げ地令）、寺領の召し上げと太平洋戦争終結によるマッカーサー指令により山林の大半が国有化（現本山寺国有林）、田地畑地の民有となり保持されてきた樹々は伐採され、後に植林がされるも、国費の減額により営林省の経費削減、後には林野庁への編入となり、益々林地内（国有林）の荒廃が進み、これを国に問うと「唯今は休養林です」との答えが返ってくる始末です。

現在、わずかに残った本山寺の森は府下唯一の「モミ」「ツガ」の林（針葉樹）で、大阪府指定第1号の特別保全地域（昭和53年）、また、神峯山寺の森は同じく府下唯一の「カシ」「シイ」などの常緑広葉樹の林です。この大切な自然を何とか維持保全しようと本山寺と神峯山寺の住職は先代の住職より引き継いで府民の方々のためにもと境内を提供し、自然観察会、野鳥の会、自然学習会などを開いてきました。春には樹々の芽生え、境内の花々が咲き、夏には樹々の木陰に集う人々、秋はモミジが紅に染まります。

しかし、近年「ニホンジカ」の生息数が年々殖え続けているのは全国的です。大阪府下においても北摂山間部、能勢の里山、農地、林地の食害の報告はすごいものです。

本山寺の森、神峯山寺の森においても年々殖え続けて林地内の下草、若樹、稚樹、植林樹を食害し、樹皮を剥ぎ、森林（（もり））の生態系を大きく崩しています。林間の灌木がほとんどなくなり（食害）、谷よりの上昇気流により地表が乾燥し保水力がなくなって樹木の立ち枯れが見られるようになりました。

以上のように大阪近郊にあって、大変貴重な豊かな自然とすばらしい環境を何とか護りたいとの思いから「本山寺・神峯山寺の森林（（もり））保全協議会」（注）を設立いたしましたところでは

宗教者（僧侶）としては、次の三本柱を中心にとらえて参拝者に布教活動を行っているところでは

一、「奉仕」－感謝の心で活動する。

一、「命」－生きとし生きるものすべてを大切に

一、「共生」－共に命を大切に、思いやる心を持って生活する。（共存共栄）

しかし、その根本になる自然が崩れてしまっは・・・！との思いからご賛同いただける方々に呼びかけているところでは

今、山寺は気温8度、ストーブに火を入れました。エンピツを持つ手が冷たいです。妻がコーヒーを持ってきました。もうすぐ夕食かな・・・

事務所のガラス戸より夕暮れの庭を眺めていますが、4頭のメスジカが茶色くなった芝草を食べています、遠くでオスジカが声高に長く尾を引いて泣いています。本当に冷えてきました。

2011年11月

2011年「都市と自然」より抜粋

注：現在「本山寺自然環境保全地域を考える協議会」（事務局：保全協会）として活動中